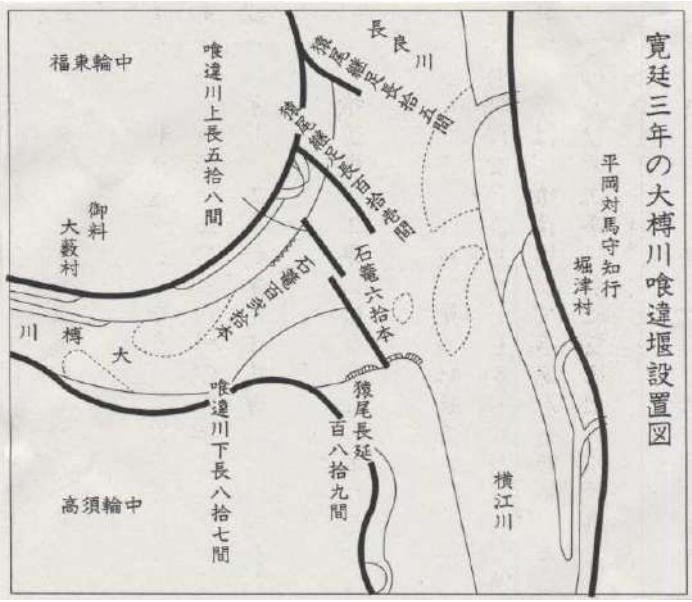
大藪洗堰跡

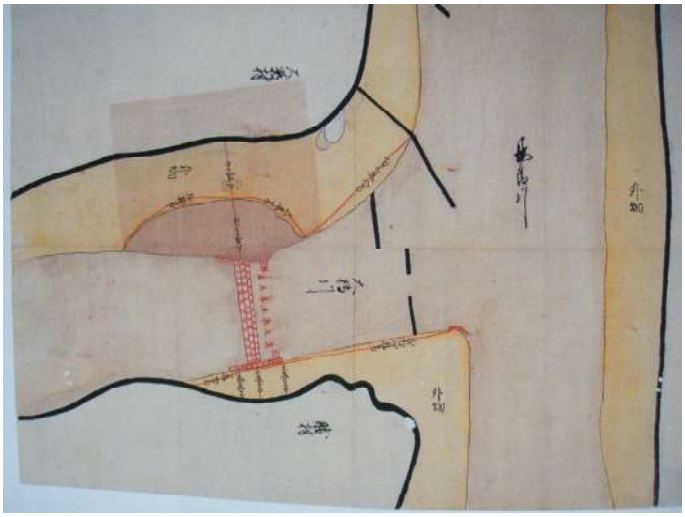
○　**所　在**　　輪之内町大藪字新河原2865の4
○　**指定年月日**　　県指定　史跡　昭和３４年３月１０日
○　**時　代**　　江戸時代



大樽川はもともと長良川の水行をよくするために、長良川と揖斐川を結んだ人工川であるが、両川の川底の差が八尺もあったため、洪水ごとに、長良川の水が大樽川に奔流して、福東・高須の両輪中に氾濫した。また、江戸時代に入ると、新田開発が進められ、今まで遊水池となっていた土地が減り、洪水が頻繁に起こるようになった。そのため、福東輪中の村々が大藪村と勝村との間に、石堰を築き、締め切る工事を願い出たところ、寛延３（１７５０）年10月、大樽川喰違堰設置工事の許可がおり、翌年１月から農民の手による工事が行われ完成させた。（**大樽川喰違堰**）

喰違堰は、大藪村側から長さ５８間、勝村から８７間の石堰をそれぞれ常水面より、一尺八寸高く築いたものである。

しかし、大樽川喰違堰を設置しても規模が小さく水の勢いを押さえることができず、十分な効果が得られなかったため、宝暦３（１７５３）年１２月２５日、幕府は大規模な治水工事を薩摩藩にお手伝い普請として命じたのであった。薩摩藩による大樽川の築堰は、寛延４（1751）年に関係輪中の自普請で築いた大樽川喰違堰から下流４８間の地点に 堤の長さ９８間、石堰高さ４尺、堤敷２３間の青竹造りの蛇かご石積みの洗堰である。この洗堰は長良川の水かさが二合までは石堰で遮られるが、それ以上になると水は堰を超えて大樽川に流れ込んで、両川の水勢いを緩和する設計であった。宝暦４年２月ばに着工して、同５年３月２８日に完成した。（**薩摩洗堰**）



宝暦五年　大樽川大藪村方外畑欠所絵図

しかし、この洗堰完成後半年とたたない宝暦５年５月２８、９日頃の出水で洗堰西岸大藪村方外畑が長さ九十間、幅五十間ほど決壊流失し、新しい河道ができた。そこで再度調査が行われ、自普請で宝暦七年７月から新たに薩摩堰より上流１１０間余のところに長さ１０８間の洗堰を築造す

る工事をはじめ、翌８年３月に完成した。以後明治３３年大榑川の締切堤の完成するまで約１５０年間、長良・揖斐両川の制水の役割を果たし、福束・高須・多芸輪中を水害から守った。（**大榑川洗堰**）

なお、宝暦８年に完成した大榑川洗堰は平成１０年より埋蔵文化財包蔵地に追加された。

現在大榑川は廃川となり、川底は払下げられて民有地となって開墾され、当時の洗堰は田面から没して、その面影を見ることもできないが、今も三、四尺掘れば往年の石積みを見ることができる。

その場所に「薩摩堰遺跡」の記念碑が建てられて、その偉功に感謝の意を表している。

平成１０年宝暦治水サミット資料より

宝暦８年完成大榑川洗堰（洗堰の試掘）水うけ部

宝暦５年完成薩摩洗堰（洗堰の試掘）平成９年４月

大榑川洗堰（宝暦８年３月～明治３２年）